

関西弁の特徴とイメージ～標準語と比較して～

国語班: 向井香沙音、吉田愛彩

要約

本研究の目的は、違う方言を話す人同士の会話で起こるトラブルの原因を明らかにすることである。アンケート調査によって、それぞれの方言の使用者には、自分の方言に対するプライドがあり、潜在的に他の方言に対する対抗心を持っているとわかった。また、人は、方言を、自分を表現する手段や相手について判断する指針として使っている。従って、本研究では、自分の方言に対するプライド、相手の方言への偏見や潜在意識がトラブルを生んでいると結論づけた。

1. はじめに

私たちは、関東に住んでいた際、友人や先生との会話で関西弁を使ったことによって勘違いを生んでしまった経験から、他者とのコミュニケーションにおいて方言の違いにより双方の認識に違いが生まれ、その結果トラブルが起こってしまうことを知った。そこで、方言の特徴やイメージ、標準語との差異を見つけ出すことで、トラブルが起こる原因がわかるのではないかと考えた。本研究では、関西弁と標準語を比較し、特徴やイメージの違いを調査することにした。

2. 研究手法

図書室にある方言の研究について書かれている書籍やインターネットに掲載されている論文を使用して文献調査を行った。(実験1) それらのデータは過去のものが多かったので、高津生75, 76期を対象とし、Googleフォームを使用して私たちの世代が実際に方言について考えていることを調査した。(実験2)
 ≪実験1≫

関西弁、標準語のイメージ、自分の使っている方言に対する意識、若年層の方言に対する意識の変化、方言の使用頻度についての文献調査を行った。

≪実験2≫

対象: 高津生75, 76期、方法: Googleフォーム、回答人数: 153人

アンケート内容: 関西弁に対する意識、標準語に対する意識、

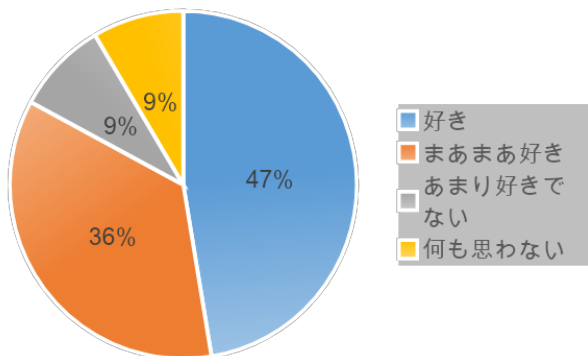
3. 結果

≪実験1≫

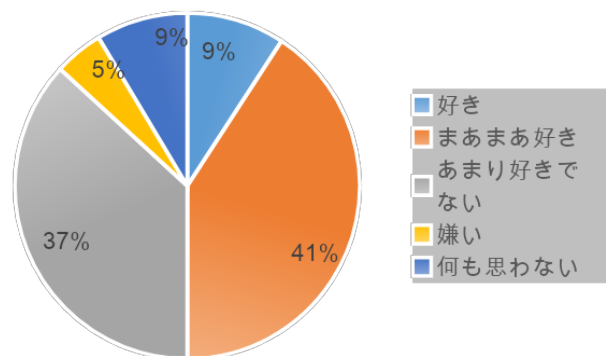
関西弁に対しては、「明るい、親しみやすい、うるさい」、標準語に対しては「あっさり、能率的、冷たい」などのイメージがあがった。関西弁を使う地域では、自分の使う方言が好きな割合が高く、標準語が好きな割合が低かった。一方、首都圏に住む10代の60%以上が、関西弁が好きで、関西弁を使いたいと思っていることが分かった。

≪実験2≫

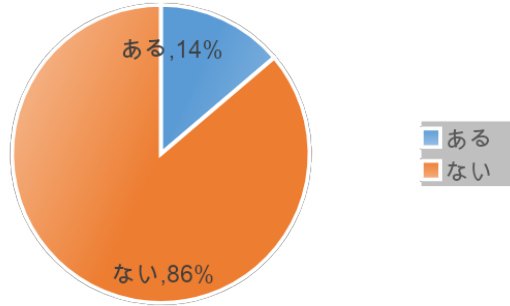
自分の方言に対する意識



標準語に対する印象

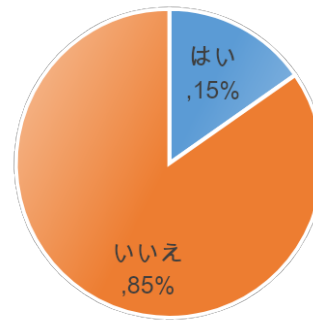
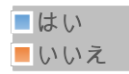
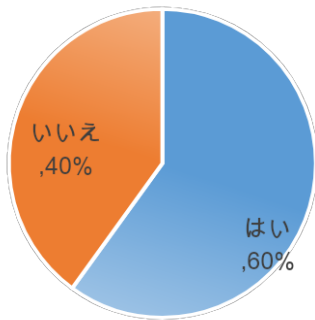


他府県への移住経験

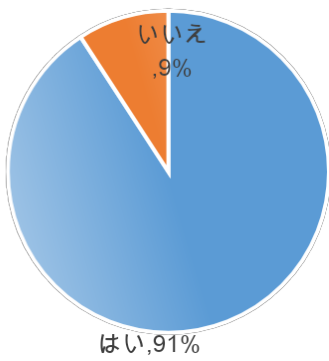


移住すれば現在の方言を変えるか

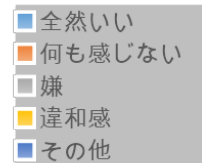
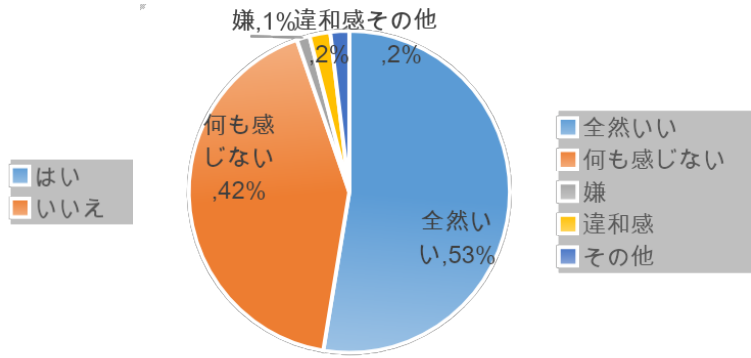
これまでの移住で使う方言が変化したか



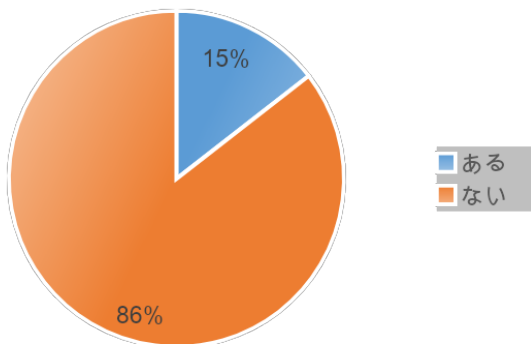
SNSで方言を使うか



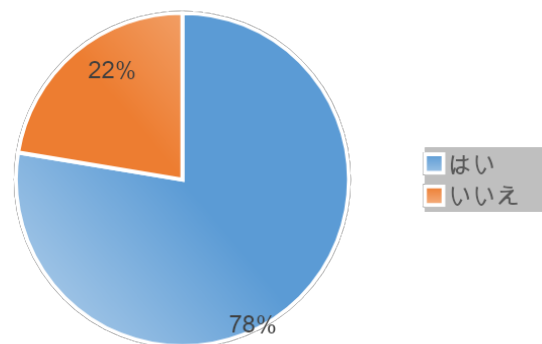
自分と異なる方言で話しかけられたとき



方言によるトラブルが起きたことがあるか



方言を守る必要があるか



4. 考察

アンケートの結果から、関西弁使用者には、潜在的に関西弁へのプライドや誇りがあり、標準語に対しては対抗心や多少の嫌悪感をもっているのではないかと考えた。それは逆の立場からも同じことが言えると思う。また、私たちは方言を、自分自身や個性を簡単に表現するための手段、相手がどのような人物なのかを判断する指針として使っていると考えられる。これらがトラブルの原因となっていると思う。

5. 結論

文献調査やアンケートの結果から、自分の方言に対するプライド、相手の方言への偏見や潜在意識がトラブルを生んでいると結論づけた。今回実施したアンケートでは、対象が大阪在住の高津生に限定されてしまったので、機会があれば関東圏の人にもアンケートを取り、今回の結果と比較して研究を深めたい。また、世代間で方言に対する意識に差があるのかについても調査してみたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

渡辺匠、唐沢かおり(東京大学)『共通語と大阪方言に対する顕在的、潜在的態度の検討』2013年。

永瀬治郎『方言イメージの形成』2011年。

近藤紗耶『若年層の方言使用と方言意識』

『現在の関西弁における方言意識と標準語化』2018年。

イナムダー・アビジッド『方言比較研究: 広島弁、関西弁、標準語』2014年。

林大『図説日本語』角川書店、1982年。